

【薬剤師】

1. 現状と課題について

- 薬剤師総数は全国並に増加しているが、その増加率は薬局薬剤師に比べて病院薬剤師では小さく、病院薬剤師確保が課題
- 県全体の人口 10 万対病院薬剤師数は全国平均を上回っているが、石川中央に集中しており、その他 3 医療圏では全国平均を下回っているという地域偏在がある。
- 能登中部・北部における病院薬剤師の高齢化が進んでおり、業務継続が危ぶまれている。
- 将来にわたって安定的に薬剤師を確保するため、地域で活躍する新たな人材の育成・掘り起こしが必要
- 医療の進歩、医薬分業の進展、在宅医療の普及、病院におけるチーム医療などに対応するには、専門性を持った質の高い薬剤師が求められている。

(1) 薬剤師の配置状況

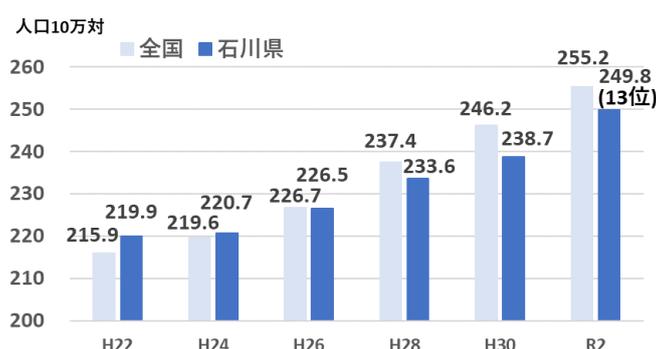
【薬剤師の総数】

○石川県における薬剤師総数は令和2年度末で2,829人であり、10年間で257人増加（1.1倍）、また人口10万対薬剤師数は令和2年度末で249.8人であり、10年間で29.9人増加（1.1倍）しており、いずれも全国同水準（いずれも1.1倍）で推移している。

図 薬剤師総数の年次推移
(全国・石川県：H22～R2)



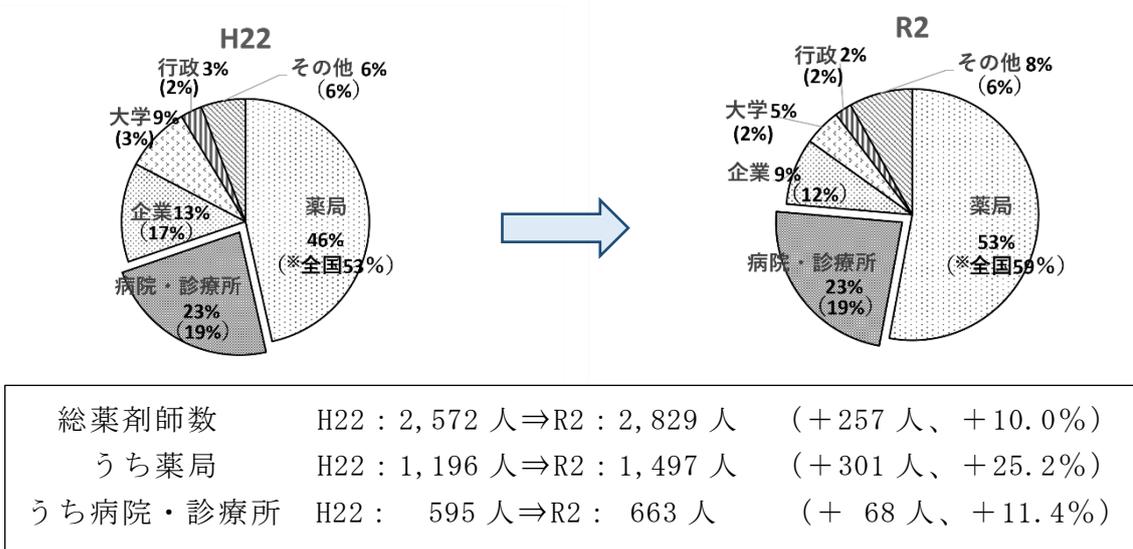
図 人口10万対薬剤師数の年次推移
(全国・石川県：H22～R2)



出典：「医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚生労働省）

○石川県における業種別の薬剤師就業割合は、薬局が53%と約半数を占め、10年間の増加率も薬局が最大となっている。

図 業種別薬剤師就業割合（石川県：H22・R2 ※（）内は全国割合）



出典：「医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚生労働省）

なお、医療圏別・業種別の薬剤師数は以下のとおりである。（単位：人）

H22	南加賀	石川中央	能登中部	能登北部	計
薬局	232	782	107	75	1,196
病院・診療所	100	411	62	22	595
大学	1	220	0	0	221
企業	23	285	22	8	338
行政	4	59	4	6	73
その他	6	133	5	5	149
計	366	1,890	200	116	2,572

R2	南加賀	石川中央	能登中部	能登北部	計
薬局	262	1,059	110	66	1,497
病院・診療所	112	475	52	24	663
大学	0	134	0	0	134
企業	24	198	15	6	243
行政	7	47	5	3	62
その他	12	193	16	9	230
計	417	2,106	198	108	2,829

出典：「医師・歯科医師・薬剤師調査」（厚生労働省）

【薬剤師の偏在の状況】

○二次医療圏における人口10万対の薬剤師総数および病院薬剤師数は、いずれも石川中央医療圏に集中している。

図 医療圏ごとの人口10万対薬剤師総数(R2)

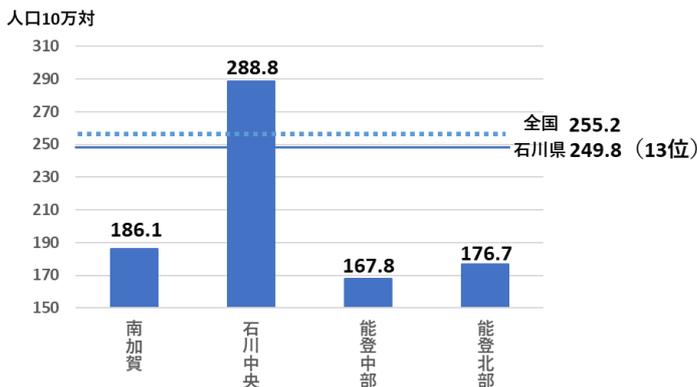
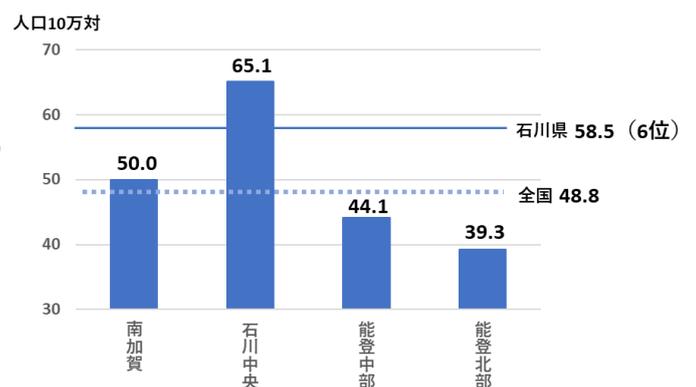


図 医療圏ごとの人口10万対病院薬剤師数(R2)



第7章 保健・医療基盤の充実

○国が示した偏在指標※（目標は1.0）によると、県全体では病院薬剤師も薬局薬剤師も中間的区域（多数でも少数でもない）であるが、医療圏別に見ると、南加賀はいずれの業態も中間的区域、石川中央は薬局薬剤師が多数区域、病院薬剤師は中間的区域、能登中部・能登北部はいずれの業態も少数区域であった。

表 業態別（病院・薬局）の偏在状況（全国・県全体・医療圏ごと）

	病院薬剤師		薬局薬剤師	
	偏在指標	全国順位	偏在指標	全国順位
県全体	中間的区域 (0.87)	8/47	中間的区域 (0.96)	25/47
南加賀	中間的区域 (0.76)	107/*335	中間的区域 (0.87)	193/335
石川中央	中間的区域 (0.97)	24/335	多数区域 (1.09)	66/335
能登中部	少数区域 (0.68)	174/335	少数区域 (0.65)	303/335
能登北部	少数区域 (0.59)	243/335	少数区域 (0.65)	302/335
全国	0.80		1.08	

※二次医療圏の総数：335

出典：「令和5年第1回医療政策研修会資料」（厚生労働省）

※偏在指標：国がR5に示した、病院・薬局薬剤師それぞれの業態における全国共通の指標。それぞれの業務量（推定）とそれぞれの労働時間の比率を表したもので、1.0が目標となる。

○二次医療圏ごとの公的病院（26病院）における薬剤師の平均年齢は、南加賀で39.2歳（50代以上27.0%）、石川中央で37.6歳（50代以上14.0%）、能登中部で47.9歳（50代以上45.8%）能登北部で50.1歳（50代以上47.4%）と、能登の2医療圏で高齢化が顕著であり、薬剤師の新規確保が喫緊の課題である。

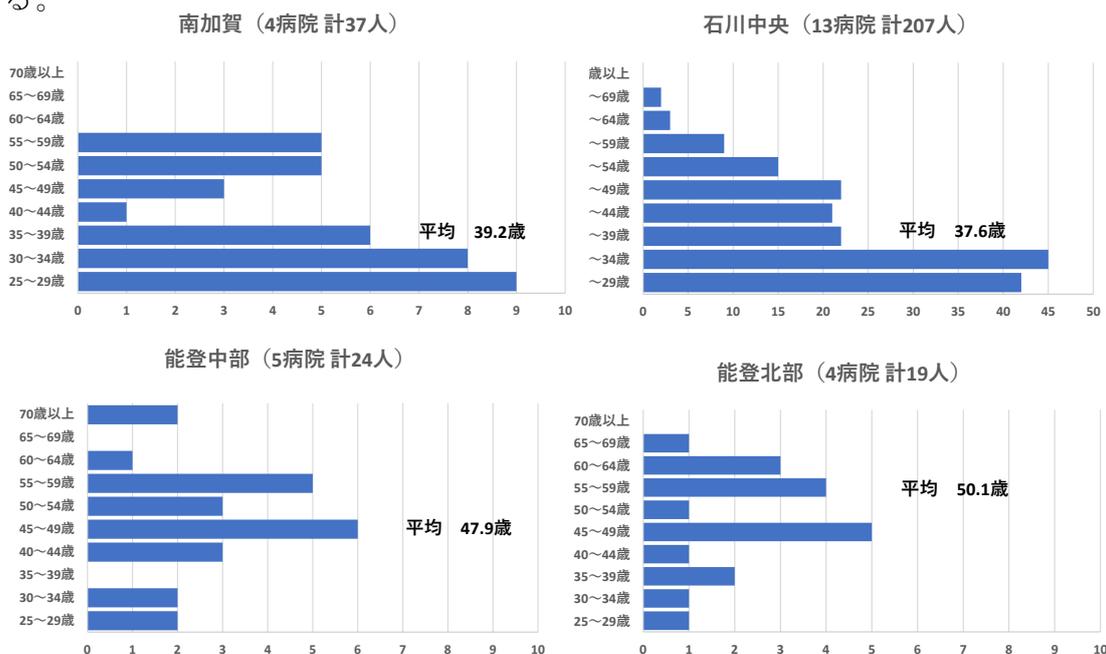


図 医療圏ごとの公的病院勤務薬剤師の平均年齢（R4.6時点：薬事衛生課調査）

2. 確保の方針

【目的（目指す方向）】

- 県民が必要とする質の高い医療提供体制の確保

【目標】

- 病院薬剤師における地域偏在の解消
- 地域医療を理解した人材の確保・育成
- 魅力ある病院の職場環境の整備

（1）薬剤師の資質向上・偏在解消

○資質向上研修の実施

- ・ 県薬剤師会は、薬剤師の資質向上に係る研修を実施する。
- ・ 県は、県薬剤師会が行う研修等を支援する。

○石川県地域連携薬剤師共育プログラムの実施

- ・ 県は、基幹病院と地域病院の双方での就業により専門資格（各団体等認定するがん、循環器病、腎臓病などの専門資格）を取得できるプログラムを実施し、地域で活躍する薬剤師の確保と育成を図る。
- ・ 県は、上記プログラム満了を条件として、大学在学中に借り入れた修学資金の返済を一部支援する。

（2）薬剤師の確保

○中高生に対する普及啓発

- ・ 県薬剤師会は、中高生及び保護者を対象に、薬剤師の魅力を発信することで薬学部への進学者を増やし、将来にわたり安定的な確保を図る。
- ・ 県は、県薬剤師会が行う中高生に対する魅力発信事業を支援する。

○未就業薬剤師への復職支援研修の実施

- ・ 県薬剤師会は、再就業を希望する未就業薬剤師の現場復帰を支援するための研修会を開催し、薬剤師の掘り起こしを図る。
- ・ 県は、県薬剤師会が行う復職支援研修を支援する。

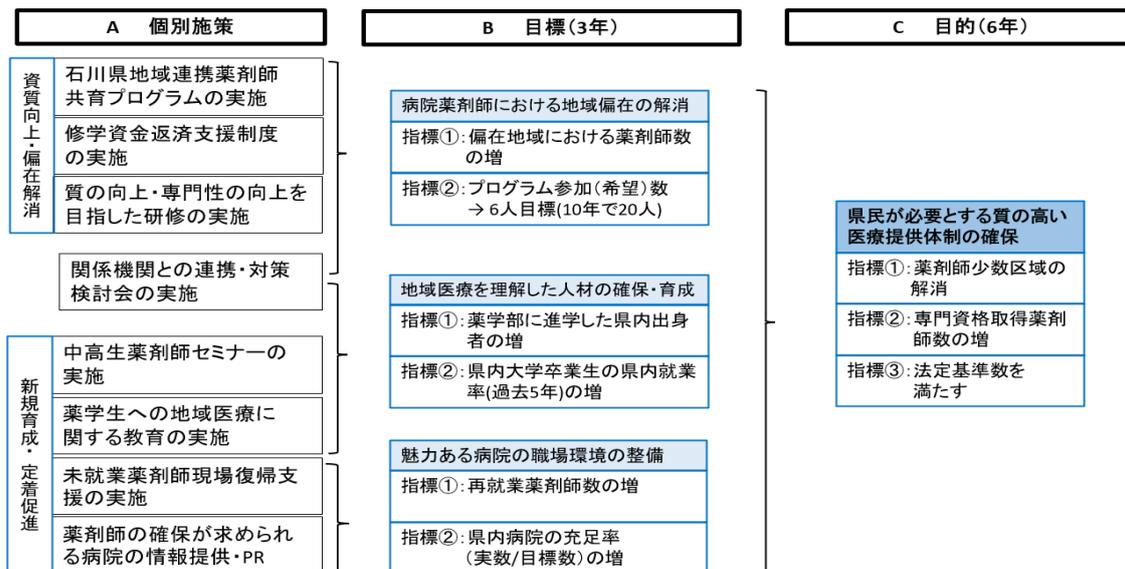
○薬学生に対する普及啓発

- ・ 大学では、講義等を通じて、地域医療に関する教育を実施し、地域医療を理解する人材の育成を図る。

○薬剤師の確保が求められる病院のPR

- ・ 県薬剤師会は、病院薬剤師の求職情報を様々な媒体を活用して広く周知する。

施策・指標マップ



数値目標

分類	指標		現状値	目標値	
	名称	出典・説明		R8年度 (中間年)	R11年度 (最終年)
B	偏在地域における薬剤師数	医師・歯科医師・薬剤師調査	66人 (R2)	増加	増加
B	共育プログラム参加(希望)数	10年で20人を目標(能登地区病院薬剤師の自然減分の確保)	0人 (R5)	6人	12人
B	薬学部に進学した県内出身者	薬学教育協議会在籍者調査結果	71人 (R4)	増加	増加
B	県内大学卒業生の県内就業率	各大学による調査	27.3% (R5)	増加	増加
B	再就業薬剤師数	薬剤師会調査	0人 (R4)	増加	増加
B	県内病院薬剤師の充足率	薬事衛生課調査	86.2% (R4)	増加	増加
C	薬剤師少数区域	厚生労働省調査	能登中部 能登北部 (R5)	解消	解消
C	病院薬剤師法定基準数	薬事衛生課調査	満たす (R4)	満たす	満たす
C	専門資格取得薬剤師数	県薬剤師会調査	429人 (R5)	増加	増加